県外派遣報告書

一般社団法人
栃木県バスケットボール協会

様式1

提出日　令和　7年　8月　20日

派遣大会・事業名	令和7年度第55回関東中学校バスケットボール大会
派遣期間	令和7年8月7日（木）～8月9日(土)
報告者	武井晋平　山﨑雅洋　岡龍哉　横山良
派遣先	山梨県　甲府市

派遣スケジュール

8月　5日	審判会議・研修会（zoom）
8月　7日	1回戦
8月　8日	1回戦　2回戦
8月　9日	準決勝　決勝

大会参加審判員（本部・指名審判員のみ記載）

本部審判員	平原 勇次　氏、梶 崇司　氏
指名審判員	加藤 暁生　氏、武藤 陽子　氏、若林 謙作　氏

審判会議　ミーティング内容（共通事項・強調された点など）

1.挨拶
・山梨県バスケットボール協会　専務理事　　仙洞田一郎 様
・山梨県バスケットボール協会　審判委員長　佐田 幸一 様
・関東バスケットボール協会　　審判委員長　平原 勇次 様

2.指名審判員レクチャー
若林 謙作　氏
様々な立場から審判が考慮すべき点
〇大会の位置付け：U15部活動の大会で、全国大会4枠を争う重要な大会（地区→県→ブロック→全国）
　①指導者：経験豊富な指導者もいればそうでない方もいる。ゲームを一緒に進める意識、適切なコミュニケーション、ベンチの意図を汲む。
　②TO/FK/MC：中学生が務めることも多く、コミュニケーションを大切にする、一緒にゲームを進める仲間という意識を持つ。中学生にわかりやすいプレゼンも必要。
　③保護者：映像に残ることが多い。だからこそ判定の公平性、処置ミスゼロを目指す。オフザコートでの言動にも注意する。
　④選手：トップリーグの影響もあり個々のレベルは上がっている。多感な思春期で3年間の思いが込められている。
公平なプレーコーリング、コミュニケーション、プレイヤーズファーストの考え方を大切にする。
関係者全員が「参加してよかった」と思える大会を目指す

武藤　陽子　氏
なりたい自分になるために～モチベーションの高め方～
〇モチベーションの定義：目標達成の行動を起こす原動力
〇モチベーション低下の原因：意義が感じられない、目的喪失、不透明な評価、承認欠如、孤立、心理的安全性の欠如
〇モチベーションの上げ方：
　－目標を明確にする
　－ルーティンを作る
　－仲間を作る（感情・情報の共有、新しい発見につながる、同志、ライバル）
　－成功体験を積む
　－チャレンジしやすい環境を作る
　－自分の強みを理解する（言語化して自信につなげる：例　クイロックに強い、コミュニケーションが得意、足がある、プレゼンが強い、感性がある、経験があるなど）
モチベーションの上げ方は人それぞれ、自分に合った方法を見つけることが大切

加藤　暁生　氏
ミスしたことを作業化して習慣化する
〇失敗をなくすための作業を考え、繰り返し練習し習慣化することでスキルアップにつながる
具体的な例：
　－3Q開始時にふわっと入ってしまう→ハーフタイム終わりに試合前と同じアップをする
　－リングに当たったかどうか飛んでしまう→当たった/エアボールをセルフトーク
　－同時刻入退場に気付けない→アウトした選手の背番号を読む
　－フリースローでのテンディング/タップシュート対応→強いプレゼンを頭の中でリハーサルする
　－チームコントロールファウルの確認→攻守交代時のファウルは1回考える
　－ボールウォッチャーになるのを防ぐ→リードに入る時に「強気」「目の前」と言い聞かせる
審判として起こりうるミスを想定して事前に対策を考えておくことが大切である

3.審判割当確認
4.連絡事項
5.その他・質疑応答

県外派遣報告書

一般社団法人
栃木県バスケットボール協会

様式2

提出日　令和　　7年　8月　20日

担当試合

試合日	令和7年8月8日（金）
回戦　カード　点数	男子準々決勝　豊野（埼玉）52ー41山内（神奈川）
会場	小瀬スポーツ公園体育館
審判員名	CC：加藤暁生（指名）　U1：武井晋平（栃木）　U2：小林大輝（茨城）
審判員主任名	岡龍哉（栃木）
試合振り返り	

自分のプライマリの判定について、プレーを丁寧に見ていった。ファウルバランスも良く、試合全体を通して、安定した判定であった。特に、クロックの管理については、ショットクロック、メインクロックの修正を行うところが見受けられ、クロックの管理が的確であった。

担当試合

試合日	令和7年8月9日（土）
回戦　カード　点数	男子準決勝　豊野（埼玉）57ー39実践学園（東京）
会場	小瀬スポーツ公園体育館
審判員名	CC：長谷川裕（神奈川）　U1：武井晋平（栃木）　U2：荻野健（山梨）
審判員主任名	若林謙作（指名）
試合振り返り	

ファーストコールについて、トレイルからドライブショットのファウルを取り上げたが、Lの目の前でもあり、Lに任せても良かったのではないか。ゲームの序盤でもあり、クルーワークとして、無理に取り上げることはしなくて良い。
ヘルプディフェンスについて、センターからのドライブに対して、ストロングサイドからのヘルプディフェンスについては、Lがコールしており、Cからのドライブではあるが、Lのレフリーに任せたという見方は良かったと思う。また、その後、自分がLだった時のヘルプディフェンスについて、コンタクトがあり、ファウルコールしたものについても、ヘルプディフェンスの考え方を理解し、適応していた。
ポイントポイントで笛は鳴っているが、1試合を通して、テンポセットを含めて、コンスタントに笛を入れていけるようにしたいと感じた。

全体の感想　提言　参加者から学んだこと栃木県内審判員へ伝達したいこと

今回の関東中学は、地元開催以外で初めての派遣であり、初の2泊審判としての派遣となりました。県内の講習会でもしばしば話が出ていましたが、地区予選から全国へ勝ちがっていく唯一の大会ということで、非常に1試合1試合の重みを感じる大会となりました。審判会議においても、指名のお三方からそれぞれのレクチャーがあり、若林講師からは、大会の位置付けや選手が多感な思春期であることなど、選手とのコミュニケーションなど、今大会の特性の話を頂きました。また武藤講師からは、モチベーションについての話があり、目標を明確にすることや同じ審判の仲間に助けられたことなど、メンタリティに関する話題を聞くことができました。加藤講師からは、失敗をなくすための習慣化について話を頂き、失敗したあと、その失敗をなくすような作業を考えて、繰り返し練習して、習慣化できればスキルアップに繋がるという実体験について聞くことができました。3名の講師の皆さんの話を聞いて、この大会がどのような特性を持っており、そのための自分のモチベーション、そしてこれまでの反省から、試合に臨む準備に至るまで、改めて振り返るきっかけとなりました。最後に今回の派遣にあたり、平日仕事を休んで大会に臨み、審判会議を含め大変中身の濃い大会となりました。期間中、山梨県の皆様にはお礼を申し上げますと共に、派遣にあたり、梶審判長をはじめご一緒させて頂きました県内審判員の皆様には、心から感謝を申し上げご報告といたします。

県外派遣報告書

一般社団法人
栃木県バスケットボール協会

様式2

提出日　令和　7年　8月　20日

担当試合

試合日	令和7年8月7日（木）
回戦　カード　点数	男子1回戦　由井（東京）75－44北橘（群馬）
会場	小瀬スポーツ公園体育館
審判員名	CC：山﨑雅洋（栃木）　U1：天野賢介（山梨）　U2：清水倫人（山梨）
審判員主任名	加藤暁生（指名）
試合振り返り	

落ち着いて始まった1Qであったが、2Q終盤からコンタクトが強くなり、3Q、4Qと続いていった。自分のプライマリは判定を続けた印象だったが、なかなか落ち着かないゲームの状況を落ち着かせる手立てはなかったのか、自分の中の反省として残っている。加藤氏からは、2Qに4連続でファウルを取り上げたケースで、確かにセンター側の自分からも捉えられているところかもしれないが、リードのプライマリのところはもう少し長くプレイを見て、セカンダリとして笛を入れるようにしていった方がよい、他2名のクルーが不安を感じてしまう、とのことであった。

担当試合

試合日	令和7年8月8日（金）
回戦　カード　点数	女子2回戦　敷島（山梨）48－90八王子第一（東京）
会場	緑が丘スポーツ公園体育館
審判員名	CC：山﨑雅洋（栃木）　U1：穂川苑子（群馬）　U2：鈴木幸恵（神奈川）
審判員主任名	武藤陽子（指名）
試合振り返り	

山梨の敷島は、小さいながらも巧みなドリブルワークと果敢に飛び込むルーズボールやリバウンド、積極的なディープスリーで、八王子第一の高さに負けず対抗していた。が、2Qで高さの差が顕著に出てしまい、八王子のポストやリバウンドに対しファウルがかさんでしまい、一方の八王子はファウルがほとんどなくファウルバランスが7：1になってしまった。ファウルバランス自体は仕方のないことかもしれないが、どうメッセージを伝え、ファウルをせず頑張らせることができるのか、反省点として強く残っている。

全体の感想　提言　参加者から学んだこと栃木県内審判員へ伝達したいこと

日々のトレーニングと勉強、他者のレフリーを見て学ぶ、とても大切なんだと選手ファーストで考えたときに改めて感じた。派遣審判員の多くがそういった熱意を持って臨んでいた。この歳になって改めてそういった熱意を感じることができて、先は短いがもうひと踏ん張り、できることをやってみよう、選手のために、と感じている。

県外派遣報告書

一般社団法人
栃木県バスケットボール協会

様式2

提出日　令和　7年　　8月　　20日

担当試合

試合日	令和7年8月7日(木)
回戦　カード　点数	男子1回戦　赤塚(茨城)61-69塩山(山梨)
会場	小瀬スポーツ公園体育館
審判員名	CC:岡龍哉(栃木)　U1:小原宏太(埼玉)　U2:横山崇斗(千葉)
審判員主任名	武藤陽子(指名)
試合振り返り	

両チーム、エースとなるプレーヤーが中心となり、アップテンポな攻防が繰り広げられた。
PGCでは、誰がみても分かりやすいレフェリングを目指して、シンプルにコールする、掲示物の確認、TOの中学生に分かりやすいプレゼンができるよう確認をした。
それぞれのエリアでシンプルにコールすることは続けることができた。いくつか取りこぼしているリバウンドでのイリーガルな接触や、ショットクロックの修正がクルーで足りない部分だった。また、試合終盤におけるバイオレーションの判定で自信のないものが1つあった。確証をもった判定をするために、適切なプレーの距離を保ちたい。また、CCとして声を出して、TOの中学生にコミュニケーションをとるようにしたが、より自分が試合を引っ張っていくというCCメンタリティをゲーム内での行動で示していくことが必要であると感じた。

担当試合

試合日	令和7年8月8日(金)
回戦　カード　点数	男子2回戦　豊里(茨城)35-38実践学園(東京)
会場	小瀬スポーツ公園体育館
審判員名	CC:岡龍哉(栃木)　U1:野口祐大(埼玉)　U2:中嶋駈(山梨)
審判員主任名	加藤暁生(指名)
試合振り返り	

両チームシュートが決まらない拮抗したゲームとなった。PGCでは前日と同じく、誰がみても分かりやすいレフェリングを目指して、シンプルにコールする、掲示物の確認、TOの中学生に分かりやすいプレゼンができるよう確認をした。また、サイズのミスマッチが想定されるマッチアップへの見方を確認した。
序盤、豊里の手の使い方に関してコールしていったが、豊里4番のポストへの守り方に対し、もっと笛を序盤から入れてもよかった。お互いに点が決まらない理由をクルーで考えることで、イリーガルなプレーに気づき、見るべきものが明確になるとアドバイスがあった。4Q最後まで勝敗が分からない緊張感のあるゲームであったが、集中力を高めて最後までいいゲームを運営できるよう取り組んだ。

全体の感想　提言　参加者から学んだこと栃木県内審判員へ伝達したいこと

自分の所属連盟大会であり、中学生にとって部活動の引退がかかった思い入れのある大会であるということを常に考えながら、少しでもチームや選手のためにいいレフェリングをしていこうと、準備をして試合に取り組むことができました。この大会だけでなく、常に最大の準備をして、試合では選手・コーチ・TOの考えや感じていることを把握しながら試合を進めていくことが、今の自分に必要なことであると再認識できました。振り返りを大切にし、自分のレフリングを常にアップデートしていきたいです。また、各県の審判員と交流することで、嬉しい反面、自分も負けていられないとモチベーションを更に上げていくことができました。
最後に、今回の派遣にあたり、準備よりご尽力いただきました地元山梨県の皆様、派遣に際しご配慮いただきました梶審判長をはじめ栃木県の皆様に心から感謝申し上げ、報告といたします。

県外派遣報告書

一般社団法人
栃木県バスケットボール協会

様式2

提出日　令和　7年　8月　20日

担当試合

試合日	令和7年8月7日（木）
回戦　カード　点数	男子1回戦　ちはら台南（千葉）80ー59田富（山梨）
会場	小瀬スポーツ公園体育館
審判員名	CC：豊島浩章（東京）　U1：佐藤賢（茨城）　U2：横山良（栃木）
審判員主任名	石崎公一（群馬）
試合振り返り	

長身選手がいないため、ドライブや3P、1対1が中心と予想しました。PGCでは序盤に手の使い方を整理し、関東大会というレベルを踏まえて接触があっても吹き急がず影響を見て判定する方針とともに、初日の最初のゲームで中学生がTOを務めるため、TO管理のあり方も確認しました。序盤にイリーガルな手や体の使い方を整理したことで、両チームともクリーンなゲームを展開してくれました。クロックミスもなく、両チーム実力を発揮できる環境を作れたと考えます。
講評では、センターサイド時にシューターへの視線が多く、他のマッチアップへの意識が薄い点を指摘されました。上位カテゴリではシューターからのパスが予測でき、意識不足は判定ミスに繋がるため課題とします。一方、目の前のルーズボールで連続してボールコントロールが変わった場面では、TOにクロックリセットを促す対応が的確と評価いただきました。変化をクルーに示すことで把握や連携向上に繋がるとの助言を得たため、実践します。

担当試合

試合日	令和7年8月8日（金）
回戦　カード　点数	女子2回戦　英明フロンティア（東京）49ー65相模女子（神奈川）
会場	緑が丘スポーツ公園体育館
審判員名	CC：山﨑律子（茨城）　U1：横山良（栃木）　U2：齊藤拓巳（山梨）
審判員主任名	六角亜沙美（東京）
試合振り返り	

PGCでは、明らかなバイオレーションやファウルを必要に応じてコールする視点と準備に加え、180cm超の長身選手2名への守り方とローテーションの確認を行い試合に臨みました。序盤から手の使い方を整理し円滑に進行できたー方、白のインサイドプレー時の3秒バイオレーションと、青の長身選手への密着した守り方を早期に整理することで、よりクリーンな展開にできたと感じました。講評では①リード時にプレーを見に行く動きの不足②センター時にボール運びへの注視が多くセンターエリアでの確認不足③リード時に反対サイドでプレーが展開されている時の目の前のマッチアップへの意識低下④リード時コーナー3Pでのチェックアウト遅れによる視野分担遅れ、の指摘があり、改善に努めます。

担当試合

試合日	8月8日（金）
回戦　カード　点数	女子準々決勝　富士学苑（山梨）44ー68日体大桜華（東京）
会場	緑が丘スポーツ公園体育館
審判員名	CC：平原勇次（本部）　U1：山﨑律子（茨城）　U2：横山良（栃木）
審判員主任名	永田裕衣（東京）
試合振り返り	

PGCでは、リード時のスイッチサイドのタイミングと、全ポジションでプレーを見に行くため角度や位置を変え続ける点を確認。全国大会決定戦という緊張感の中、平原氏の声掛けで平常心で臨めました。ゲームでは吹き急がず、根拠ある判定を心がけ、長時間ベストポジションを模索。結果、不要な笛を吹く機会はありませんでした。一方、アクティブなマッチアップに集中し過ぎ、次に関わるDFへの意識不足からビッグインパクトを判断できず、3度平原氏がセカンダリで対応。視野の当て方に課題を感じつつ、抱いていた違和感が誤りでなかった点は前向きに捉えています。講評では、バックコートでDFに阻まれた後のスローイン時にショットクロックが15秒止まり、コントロール有無など適切なコミュニケーションを経て、その後の処置をクルー間で確認できれば点の指摘がありました。

全体の感想　提言　参加者から学んだこと栃木県内審判員へ伝達したいこと

今回の派遣では、全国大会決定戦を含む3試合を担当しました。いずれのゲームでも良かった点や改善点を実感でき、他県の審判主任から的確な指摘や助言をいただくなど、多くの学びがあり、今後の財産となる時間でした。他県の審判仲間とも交流を深め、切磋琢磨しながらA級2次審査合格に向けて取り組む決意を新たにした3日間となりました。
山梨県の皆様には、会場運営や準備に加え、体育館フロアへの仮設空調設備の手配など多大なご尽力をいただきました。そのおかげで快適な気温の中で試合に臨め、良好なコンディションを維持できたと考えています。この場を借りて深く御礼申し上げます。
最後に、今回の派遣にあたり梶審判長をはじめ栃木県の皆様から多大なご支援とご配慮を賜りましたことに、心より感謝申し上げ、報告といたします。